

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



湘北短期大学の SDGs について ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

NGO ペシャワール会

1983年9月、中村哲医師の پاکستانでの医療活動を支援する目的で結成された国際NGO (NPO) 団体です。



中村哲医師の著作

◆天、共に在り (NHK 出版)

2013年10月刊

ISBN 978-4140816158

◆希望の一滴～中村哲、アフ

ガン最期の言葉 (西日本新聞

社) 2021年2月4日刊

ISBN 978-4816709883

◆中村哲、思索と行動～「ペ

シャワール会報」現地活動報告集

成 (上)2023年6月刊、

(下)2024年6月刊 (忘羊社)

ISBN 978-4907902346

ISBN 978-4907902353

上記のほか、多数あり

湘北 SDGs

Think Globally, Act Locally.

2025年度 第2号

(通算第28号)

今回の発行人 築瀬千詠

yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学

生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】『アフガンに命の水を』を視聴し、水・平和・命の尊さを学ぶ (2025年6月26日)

リベラルアーツ科目『メディア論A』では毎年、ドキュメンタリー作品『アフガンに命の水を』(ペシャワール会作成、日本電波ニュース社制作 56分)を視聴します。2019年凶弾に倒れた中村哲医師は人生をかけて戦火で荒廃したアフガニスタンの砂漠に水路を作り、大地を潤し農作物が収穫できるよう、人々がその地で「生きていける」「食べられる」ように尽力しました。

学生たちはふだんあまり長いドキュメンタリーに接することはないのですが、中村医師の言葉一つ一つに耳を傾け、水路を工事する地元の村人たちの笑顔に心を打たれ、大地を潤す水の流れに見入って、じっくりと視聴しました。中村医師の尊い志を通して、学生たちは水の有難さ、命をつなぐには何が必要なのか、そして、平和の尊さを改めて感じていたようでした。



「日本では蛇口をひねれば、お水が飲めます。これは、当たり前のことではないんですね。」「あの村では、汚いお水を飲んで赤ちゃんが亡くなるなんて...」「テロ掃討作戦のある中で、危険と隣り合わせで水路を作っている中村医師たちの姿に感動しました」「畑ができるよう水路を作っ

て、さらに、戦争孤児たちのために読み書きを習える場所を作っている中村医師たちは、つまり"未来を作っている"んですね」etc。

この授業は以前も一度ご紹介しましたが、今年は、ウクライナ戦争は出口が見えず、中東ではガザ攻撃が続き、イランでも戦火が拡大するか、と、世界中が緊張したタイミングで、学生たちの心に強く響いた授業となりました。
(リベラルアーツセンター非常勤講師 鈴木裕美子)

【授業紹介】 特別講義：ソニー・太陽株式会社の取り組みと継続性（2025年度前期）

2025年4月22日、総合ビジネス・情報学科の「プレゼナール」において、ソニー・太陽株式会社より安部秀さん、谷村雄二郎さんをお招きし、SDGsに関する取り組みについてご講演いただきました。

はじめにソニーの企業文化についてお話いただき、その後ソニー・太陽株式会社の概要を伺いました。ソニー・太陽株式会社は、高品質なもののづくりと障がい者雇用に力を入れており、多様性を尊重し「障がいを感じない、感じさせない」環境をつくるなど、企業としての継続的な取り組みについて現場の声を交えてお話を伺うことができました。

授業の後半では、地球を守るために「自分たちに今できること」「地域と連携し継続してできること」について、グループで意見を出し合いました。「エコバッグやマイボトルの活用」「節電・節水」「ゴミの分別」「地域の清掃活動への参加」など、様々な意見がありました。



以下は授業に対する学生の感想の一部です。

「ソニー会社の説明で障害者の方に向けての取り組みで PS5 を片手でもできるように制作したという話を聞いて、今まで自分の視野に入っていないだけで障害者に向けての取り組みを行っていることを知りもっと他の企業が行ってる障害者に向けての取り組みについて調べてみたいと思いました。」「持続可能な地球の未来を築くためには、個人、企業、政府、国の社会が協力して取り組むことが大切だと思います。僕たち一人ひとりの行動が、未来の地球に大きく影響することを忘れずに、日々の選択を大切にしていきたいと思いました。」



授業終了後にも数名の学生が残り、安部さんと谷村さんに様々な

質問をしていたことも印象的でした。（総合ビジネス・情報学科 太田奈緒）

【大学の取り組み】使用済みカイロを「GioGreenCube」にリサイクル（2025年4月）

2024年12月、防災備蓄用品の入れ替えに伴い、使い捨てカイロ920個を希望者に先着順で配布しました。また、この配布に合わせて、1号館1階ロビーに使用済みカイロの回収ボックスを設置しました。回収期間は2025年4月末までで、学生・教職員から約18kgのカイロが回収出来ました。昨年度の回収量は約5kgだったため、今年は約3.6倍の成果となり、本学におけるSDGsへの意識の高まりがうかがえる結果となりました。

回収したカイロは、一般社団法人GoGreenJapanに送られ、GoGreenCube（水質浄化剤・土壌改良剤）として再利用されます。本来廃棄されるはずの使用済みカイロが資源として有効活用されるだけでなく、

水質や土壌の改善にも寄与するこの取り組みは、SDGsのさまざまな目標・ターゲットの達成

に貢献しています。この活動を通じて、SDGsについて考え、日常生活の中でもこうした取組に気軽に参加できることに気づいていただけたのではないのでしょうか。本学では引き続き、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsの推進活動を進めてまいります。

（総務部）

使用済みカイロ回収へのご協力、ありがとうございました！

12/9(月)～4/30(水)まで
1号館1階正面入口付近に
使用済みカイロ回収ボックスを設置しました。
使用済みカイロ回収ボックスを設置しました！
約18kgの使用済みカイロを回収することができました！
カイロ1個の重さがおよそ40gなので、
約450個分です。

回収した使用済みカイロは、
一般社団法人GoGreenJapanに送り、
水をきれいにするGoGreenCubeに生まれ変わり、
水質浄化剤・土壌改良剤として使われます。
これは、SDGsのさまざまな目標につながる取り組みです。

暖かくなり、カイロを使用する機会は減りますが、
ごみが出ないよう工夫することや、
環境に配慮した製品を意識して使うことなど、
生活の中のちょっとした配慮がSDGsにつながります。
一人ひとりができることは何かを考え、実行していき、
持続可能な社会の実現を目指しましょう！




@GoGreenCube: #GoGreenCube #GoGreenJapan #GoGreenJapan #GoGreenJapan #GoGreenJapan
https://www.go-green-japan.jp/

